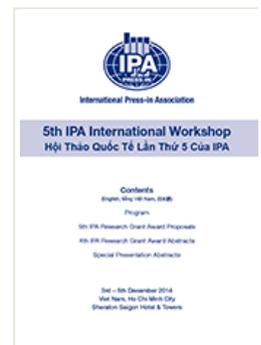


イベントレポート

第5回 IPA国際ワークショップ

開催結果報告 Part1

更新日 2014.12.24



開催日：2014年12月3日(水) - 5日(金)

開催地：ベトナム社会主義共和国 ホーチミン市

会場：シェラトン・サイゴンホテル&タワーズ

主催：IPA実行委員会及び事務局

出席者：7カ国延べ186名

プログラム：● 圧入工学に関する特別プレゼンテーション

● 第5回IPA研究助成賞 授賞式典

● 第4回IPA研究助成賞 総括発表

● 圧入デモンストレーション見学会

● レセプションと晩餐会(交流会)

後援：ベトナム地盤工学会 (VSSMGE)

国立ホーチミン工科大学 (HCMUT)

国立ホーチミン建築大学 (UAH)

株式会社技研製作所

新日鐵住金株式会社

JFEスチール株式会社

Son Hai Construction Co., Ltd.



12月3日～5日の3日間、ベトナム社会主義共和国ホーチミン市のシェラトン・サイゴンホテル&タワーズにて、「第5回IPA国際ワークショップ」を開催しました。世界7カ国から参加した102名の研究者と技術者に加え、政府関係者や大学、土木・技術・開発関係に携わる産学官の地元要職者も合わせ、延べ186名が参加しました。また今回も、ベトナム地盤工学会、国立ホーチミン工科大学、国立ホーチミン建築大学、世界有数の鉄鋼メーカーなど7団体からご後援をいただき、内容・規模共に大変充実した会議となりました。

ワークショップでは、恒例となった研究助成賞の授賞式と前回受賞者の研究成果紹介のほか、圧入工法普及に主眼を置いた講演の数々、圧入技術の実践による施工事例の紹介など、様々な分野と角度からプレゼンテーションが行われました。また、英語圏ではない国での開催にあたり、今回初の試みとして3言語(日、英、ベトナム語)の同時通訳形式を採用、従来の抄訳を省き円滑な会議運営を進めたことで、参加者から好評を博しました。当日の通訳ならびに事前の翻訳作業について、多大なご尽力をいただきました国立ホーチミン工科大学、国立ホーチミン建築大学、金沢大学の学生さんには心より御礼申し上げます。

最終日には地元へ本社を置くSon Hai Construction Co., Ltd.社の全面的な協力によって、今回のために同社の敷地内に準備した特設ヤードでサイレントパイラーECO100の圧入デモンストレーション見学会を開催しました。会場では参加者が実機のオペレーション体験をしたり、大型モニターによる圧入管理の紹介も行い、気温30度を超える猛暑の中、世界各国の研究者が圧入作業と画像を熱心に見入る姿が印象的でした。

東洋のバリとも称されるホーチミン市は、ASEAN中核国として安定した経済成長を続けており、来年は戦勝40周年の記念行事を控え都市部での交通網の整備事業が24時間体制で行われる等、大型のインフラ整備が進行中で国内は活気を

増えています。また、ODA関連をはじめとする大規模開発案件が出件され、鉄鋼関連業も活性化し、鋼矢板や鋼管杭に関する国家基準が制定されるなど、圧入技術が浸透する素地が整いつつあります。このように発展著しいホーチミンから、圧入工学の最新情報を世界中に発信できたことで、認知拡大と更なる普及が確信できました。

開会



岡村 甫 名誉会員による開会の挨拶



マイ・タン・フォン／ホーチミン工科大学
副学長からの歓迎の挨拶



北村 精男 名誉会長の挨拶



マルコム・ボルトン会長による
IPAの活動紹介



奥村 忠彦 事務局長による司会進行

特別プレゼンテーション：Part1



野崎 恒延／株式会社技研製作所 海外プロジェクト推進課
リーダー「圧入技術の最新情報とインプラント構造物」



菊池 喜昭／東京理科大学 教授 (IPA理事)
「圧入工法設計・施工指針発刊について」

特別プレゼンテーション：Part2



ダン・ダン・ティユン／ホーチミン工科大学 (HCMUT) 講師
「ベトナムにおける圧入技術の展望」



ゲン・ミン・トゥアン／ホーチミン工科大学 (HCMUT) 講師
「ベトナムにおける圧入技術の展望」



ファン・タ・レ／ホーチミン建築大学(UAH) 講師
「ベトナムにおける圧入工法の矢板施工への適用展望」



グエン・チ・トゥエット・チン／ハノイ交通大学(UTC)
都市交通・海岸工学 学部長
「ベトナムにおける鋼管矢板基礎の設計仕様」

特別プレゼンテーション：Part3



豊島 径／東南アジア新日鐵住金株式会社 主幹
「鋼製建材技術とアジアでの適用事例」



辻本 和仁／JFEスチール株式会社 建材開発部 副部長
「圧入工法によるJ-ポケットパイルの施工事例」



トラン・バン・チン／Son Hai Construction Co., Ltd.
副社長「ベトナムにおける圧入工法の実績と今後の展開」



特別プレゼンテーション：Part4



スチュワート・ヘイグ(左)／ケンブリッジ大学 講師、石原 行博(右)／株式会社技研製作所 実証科学課リーダー
「圧入工法に関する最近の研究開発」





» 第4回IPA研究助成賞 総括報告



» 第5回IPA研究助成賞 授賞式典



圧入デモンストレーション見学会



開催日：2014年12月5日(金)
 会場：ホーチミン市トランバンチン
 Son Hai Construction Co., Ltd.のヤード内
 実施協力：Son Hai Construction Co., Ltd.
 圧入機種：サイレントパイラーECO100-4CA
 プログラム：圧入施工デモンストレーション(圧入、自走)
 圧入機操作体験
 圧入管理システム実演

ワークショップ最終日の12月5日(金)、後援企業のSon Hai Construction Co., Ltd.社に全面的なご協力をいただき、メイン会場であるセラトン・サイゴンホテル&タワーズから32Km、車で60分の郊外に位置する同社のヤード内で圧入デモンストレーション見学会を開催しました。

今回用いられたサイレントパイラーECO100-4CAは、徹底した低騒音化と排出ガスのクリーン化が図られ、IT化による科学的施工管理技術を導入した環境対応型の圧入機で、見学者はそのスムーズで静かな圧入施工に見入っていました。また、実機を用いた操作体験も行い、その容易さに、"Well designed!!" "Wonderful!!"といった驚きの声があがっていました。さらに、テレビ画面上に映し出された圧入管理データによって、圧入施工が理論に沿って科学的に実践されていることを見学者全員が目当たりし、地下を可視化するための最先端技術を体感する良い機会となりました。

見学会の開催にご協力くださいましたSon Hai Construction Co., Ltd.社の皆様、心より感謝申し上げます。





松本 樹典 教授(金沢大学/IPA理事)による操作体験



ダン・ダン・チュン講師(ホーチミン工科大学)による操作体験



圧入管理システムの紹介



Son Hai Construction Co., Ltd.社
ンガ社長(左から3人目)と同社トラン副社長(左から2人目)

歓迎レセプション

2014年12月3日(水) シェラトン・サイゴンホテル&タワーズ VIP3 - 4



ワークショップ開催前夜の3日(水)、各国からの参加者が集う恒例の歓迎レセプションパーティーが盛大に開かれました。

初対面の会員同士が自己紹介をしたり、顔馴染みの会員が近況報告や情報交換をして旧交を温めるなど、会場は和やかなひと時に包まれました。

晩餐会

2014年12月4日(木) シェラトン・サイゴンホテル&タワーズ Ballrooms3

ワークショップ初日の締めくくりは、参加者の大きな楽しみの一つ、IPA主催の晩餐会です。会議会場シェラトン・サイゴンホテル&タワーズ3階のBallroomで、本格的なベトナムのコース料理が振る舞われました。

ファン・ダク・ロンベトナム地盤工学会会長による開会宣言の後、濱田政則教授によるベトナム語の挨拶を交えた乾杯の音頭、続いてテーブルには、海鮮や香草類をふんだんに使った絶品が次々と運ばれ、参加者はベトナムの美味を堪能しました。



また、こちらも恒例ともなった法人会員の株式会社梶川建設 梶川浩会長によるハーモニカの演奏が披露され、アンコール曲のクリスマスソングを皆で口ずさむなど、晩餐会は終始和やかな雰囲気、会場のいたるところで笑顔が広がりました。

中締めは第4回IPA研究助成賞受賞者でもある菊池喜昭理事が、日本式の本締めできりと締められ、賑やかなセレモニーがお開きとなりました。

今回も、さまざまな国からの参加者が、技術者や研究者といった垣根を越えて歓談し、圧入について語り合う姿があちこちで見受けられました。

魅力あふれるホーチミンの街並み



ここ数十年で急激な発展を遂げた、ベトナム最大の商業都市、ホーチミン市。かつては「プチパリ」とも称えられ、市内中心部では今でも美しいコロニアル様式の建物やカトリック教会を目にすることができ、街並みに沿って植えられた背の高い緑の街路樹がしばし喧騒を忘れさせてくれる豊かな風情を醸し出していました。一方で、市場に足を運べば商品が大量に山積みされ、道路ではバイクがとめどなく行き来し、街中が活気にあふれています。2015年には戦勝40周年の記念行事が次々と控えており、街中からその歴史と発展のエネルギーが強く感じられました。